

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝
ツアー



野生生物保護センターでの
環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで
夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

「西表の自然や文化を感じて」

龍郷町立龍南中学校
3年 東田 いちか

① 心に残ったこと

今回の研修でいちばん心に残っていることは、イリオモテヤマネコを4回も見ることができたことです。イリオモテヤマネコは、西表島にしか生息していないとても貴重な動物です。地元の人でも、2回しか見たことがないという人もいて、4回も見ることができたのは本当にすごいことだなと思いました。実際見ることができたことで、イリオモテヤマネコをもっと大切に守っていききたいと思います。

② 学んだこと・気づいたこと

カヌー体験のときに、西表島のマングローブの種類が、メヒルギやオヒルギ以外にもあることを初めて知って、とてもびっくりしました。もうひとつ、イリオモテヤマネコのロードキル防止の対策について知ることができました。西表島では、ロードキルを減らすために、道路標識や、ゼブラゾーンというもので野生生物に車の接近を知らせて道路への侵入や交通事故を防ぐ対策を行っていることがわかりました。自然を守るためには、動物を直接守るだけでなく、人間の生活の仕方もある必要があるのだと気づくことができました。

③ 自分の成長につながったこと

研修では、西表島の小中学生との交流事業がありました。この交流で、西表島の小中学生とも普段の学校生活や放課後のことなど、たくさん話することができて、仲を深めることができ、コミュニケーションをとる大切な機会になったと思います。また、実際に西表島で暮らしている人から話を聞くことで、インターネットで調べるだけではわからないこともたくさんあるのだと感じました。

④ これから、自分にできること

今回の研修を通して、私は西表島の自然や文化を実際に感じるすることができました。これからは、今回学んだことを自分で終わらせるのではなく、友達や家族にも伝えていきたいです。そして、西表島のような貴重な自然をこれからも残していくために、自分にできることを考えていきたいです。これからも、今回の経験を忘れずに、自然や文化に興味を持って、自分から積極的に学んでいきたいです。



▲西表島マングローブ。カヌーを漕いで、ピナイサーラへ！



▲西表島の小中学生との交流、3人で一緒にダイブ！



▲初イリオモテヤマネコ！